

製本のススメ

Vol. 121

春とは名ばかり？今年は、桜の次にヒマワリ？といった感じの陽気ですね。春物を着る暇もなく、いきなり夏物です。穏やかな日差しはいったい何処へ？気温の差も大きく、体調を崩している方も多いようで、咳き込む人をよくみかけます。どうぞ皆さん お身体ご自愛ください。

今回は**見返しはセンスの見せ所**の話し

前号では「見返し」の色々をお話しさせていただきました。そうは言っても、見たことないよという方もいらっしゃるでしょうが、知識の一つとしてぜひ覚えておいて下さい。お客様から本を見せられて、こんな風になっているんだけど・・・と問われた時にすかさず「〇〇見返しですね」なんて言えたら**顧客信頼度抜群にアップ**ですよ。

さて今回は見返しのセンスアップについてです。日本には昔から「隠す美」というのがあり 達人は着物や背広の裏地に凝ったりすることがあります。チラッと見える部分にお洒落をするっていうのが『粋』ですね。見返しにも 同様の使い方があります。表紙を開いた瞬間 パツと目に入る鮮やかな色を使ってみたり、本文の内容に合わせたデザインにしてみたり、見返し部分なのに筆者のコメントが書かれていたり、時々スターのサインもあつたりと **見返しの紙ひとつで その本がグッと趣を増す**なんて事よくある話です。**表紙のデザインだけでなく、裏側の隠れた部分に配慮できると通を うならせる一冊になるかもしれません。** むろん論文などの学術的な物では趣などは必要ありませんので 無地の白い用紙です。

趣といえば、時折 柄が気に入ったからと和紙素材を使いたいと言う希望がありますが、これは あまりお勧めできません。和紙は繊維が絡み合って丈夫であるといわれますが、見返し用紙として使うにはかなりの厚みがないと、役割を果たしません。例え折山に加工をしても、その継ぎ目から不具合が出てしまいます。上品な用紙はほんの少しだけ使うところに、また奥ゆかしさがでて良いのではないのでしょうか。



Tea break

日の出 日の入りは太陽のヘリが地平線にかかった瞬間と、よく知られていますが、月はちょっと違います。月の場合は「月の中心（円の中心）」が地平線にかかった瞬間で、月の出 月の入りを決めています。何故かといえば、月には満ち欠けの現象があり極めて観測しにくく 中心であれば『たとえ三日月であっても、弧の一部から中心が割り出しやすい』からだそうです。

なんだかロマンが薄れますね・・・

弊社ホームページはこちら www.isekiseihon.com

by (株) 井関製本